



「地図力」とは何か、そしてどのようにつくられるか。

佐藤 亨

今回、「地図力を鍛える」というテーマで特集を組みました。小学校、義務教育学校、中学校、中等教育学校、高等学校、大学というさまざまな校種における教育現場での「地図指導の実践事例」を通して「地図力」がどのようにつくられているかをみることにしました。

本テーマである「地図力」ということばを考えるにあたり、「地図力」を「地図を書くこと」を何というか、「地図をみること、眺めること」を何というかということから考えてみました。

周知のように、地図を書くことは「描図」、すなわち「地図を描く」といいますし、地図をみること・眺めることは「読図」、すなわち「地図を読む」といいます。「地図を描く(かく)」とは「地図」が「図」であるため、「描く(えがく)」ということはおわかりと思いますが、「地図をみる」ことを「地図を読む」というかどうか疑問を持たれるところだと思います。

地図には、さまざまな情報が書き込まれています。その情報を読み解かなければならないのです。その「情報の読み解き」が「地図をみる」ではなく、「地図を読む」という所以だと思われま

す。今回お願いした方々には授業の中でどのように地図を活用したり、操作する力を育成しているのかという取り組みを執筆していただきました。このようなどころから、「地図力」を今日的なことばで用いるならば「地図 Literacy」*という語を使うことも考えました。しかし、この語では、地図を使う力(活用する力と操作する力)のみに限定する恐れがあるので、地図を描く力(描図力)、地図をみる(見る、視る、覧る)力すなわち読図力もしっかりととらえることができる語として「地図力」ということばを用いることとしました。この「地図力」をどの学校段階でどのように学びそして力をつけていくか、各校種での実際の取り組みを紹介することとしました。

* Literacyはわが国では一般的に「リテラシー」と記されますが、原語の発音に近づけるならば「リタラシー」です。筆者はこの語を1988(昭和63)年にIndiana大学教育学部長のHoward D. Mehlinger教授に日本語の「学力」に相当する語として紹介していただきました。LiteracyはEric D. Hirschが1987(昭和62)年にCultural Literacyという著書で教養内容を示し、識字能力という意味のLiteracyを日本語の学力に相当する語として使用しました。その後「1988年版カリフォルニア州公立学校用歴史-社会科学フレームワーク(History-Social Science Framework For California Public Schools K-12)」でgeographical literacyやhistorical literacyというように教育の認識内容の目標を示す語として使われ、アメリカで一般的な教育用語として広く使用されるようになりました(現在は2016年版)。筆者はLiteracyという語を1990(平成2)年日本教育学会九州大学大会において「見方・考え方・認識能力」という意味合いをもつことばとして紹介しました。

佐藤 亨



東京都立農芸高等学校校定時制課程非常勤(日勤)教育職員、学校法人調布学園田園調布学園大学人間福祉学部教職課程兼任非常勤講師、NPO法人CEM音楽の道(長岡京室内アンサンブル)理事。1959年函館市生まれ。専門:社会科教育学。

地図中心 642号 目次【特集「地図力」を鍛えるー地理教育の現場からー】		
「地図力」とは何か、そしてどのようにつくられるか。	佐藤 亨	2
初めての地図との出会いをどうつくるか	片山 元裕	3
ショート動画で学習意欲を高める地図学習	磯貝 達也	6
地図を活用して世界を広げるー地域調査の手法ー	鈴木 拓磨	9
地図を用いた、持続可能な地域の構想を目指した中学校社会科の授業 ー「地域調査の手法」「地域の在り方」の単元を例としてー	黒須 大輝	12
中学校における地図指導の工夫	青柳 敬二	15
ふるさと岡谷のよさを探究する学習には地図が必要	中島 博文	18
GIS大衆化時代における高校地理実践	後藤 賢	21
Web地図を使った災害の実態を把握する授業の実践	井上 明日香	24
歴史総合における地図活用の可能性 ー大単元「D グローバル化と私たち」における地域学習を例にー	須郷 一史	27
「坂のまち」長崎での地図教育ー時空間の「比較」に焦点を当ててー	佐藤 洋	30
大学におけるGIS教育の実践ー近畿大学総合社会学部の事例ー	飯塚 公藤	33
第29回全国児童生徒地図優秀作品展受賞作品	編集室	36

【連載】		
《地図づくり最前線 031》全国各地の過去地図と現在の地図と比較できる「都市変遷マップ」(後編)	片岡 義明	38
《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 27》 高山本線から黒部五郎岳・黒岳、長野電鉄から鷺羽岳	清水 長正 ・徳永 靖	40
《歴史舞台地図追跡 101》江戸・東京をめぐる虚像と実像(其の廿伍)	谷口 榮	42
《地図を片手に大地を駆ける 95》アウトドア天国香港 前編	村越 真	44
《ベクター地歴地図孤軍奮闘記 68》生い立ちと切っ掛け 前編	小島 豊美	46
《地図心中 復活版 44》絵解きー41 清澄白河 今昔物語	高橋 美江	48
新刊地形図案内 50 / 今月新刊の見どころ!・日本地図センター便り 51 / 編集後記・次号予告 52		

月刊 **地図中心**

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円(税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 **12冊**

プレミアム会員

6,600円(税・送料込)

プレミアム会員(シニア) 満65歳以上

5,500円(税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員(紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費(税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員(シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》
本誌特集の一部を抜粋して転載したもので、縮小・部分表示をしています。

初めての地図との出会いをどうつくるか

かたやま もとひろ
片山 元裕

◆3年生の子どもと地図

小学校3年生になると、子どもたちは新しく「社会」という教科に出会います。同時に、一人一冊の地図帳が手渡されます。真新しい紙面をめくりながら、「自分の家はここらへんにある!」「ここ行ったことある!」と声を上げる子どもたちの姿は、どの学校でも見られる素敵な光景です。一方で、すべての子どもが地図や航空写真に十分親しんできたわけではありません。日常生活の中で地図を使う経験がほとんどないま

ま、3年生を迎える子どもも少なくありません。縮尺や方位、記号といった地図の約束以前に、地図を見ることが自体が初めての経験という場合もあります。

だからこそ、3年生における地図学習では、どのように正しく読むかを急ぐ前に、地図との最初の出会いそのものを、どのように立ち上げるのが重要となります。地図を「眺め、発見し、語りたくなるもの」とワクワクした経験ができるかどうか。この最初の印象が、これから続く学びの姿勢にも大きく影響すると

考えています。

本稿では、3年生の子どもたちが地図に初めて本格的に出会う場面において、「地図に夢中になる子どもの姿をどうつくるか」という観点から、授業と実際の子どもの反応を紹介していきたいと思います。

◆「お茶小」を探す子どもたち

まずは、本校（お茶の水女子大学附属小学校）が位置する文京区の航空写真（資料1）を、子どもたち一人ひとりに配りました。本校には東



資料1 地理院地図（2026年1月取得）

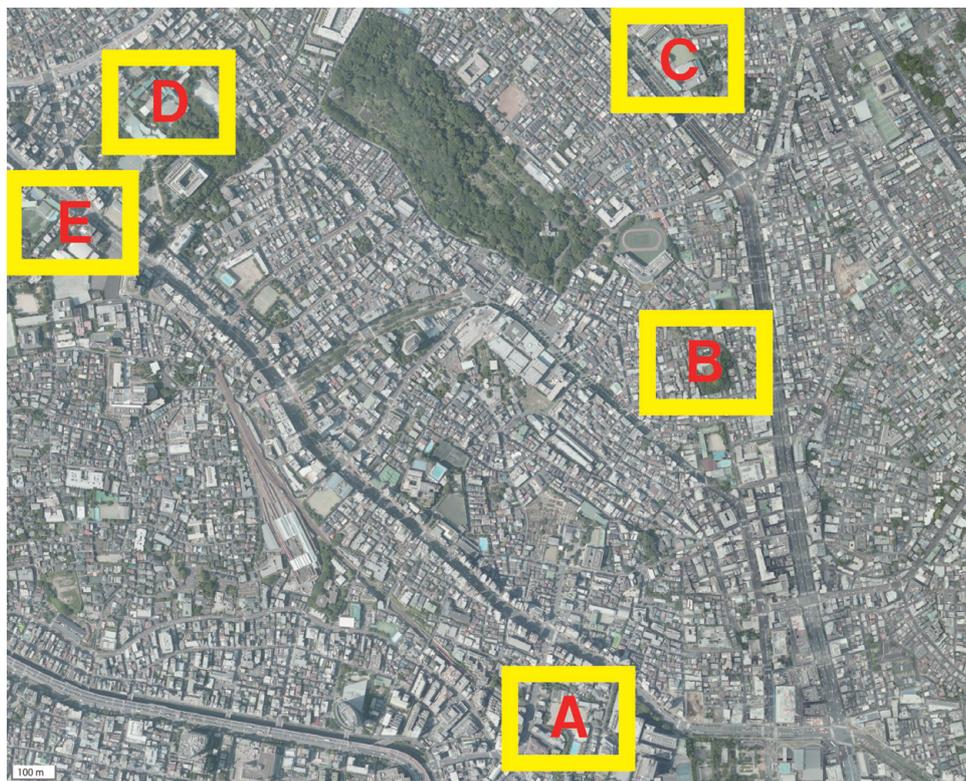


京都内の各地から子どもが通学しており、「お茶小」（本校の愛称）は、学級の全員にとって共通の場所となっています。

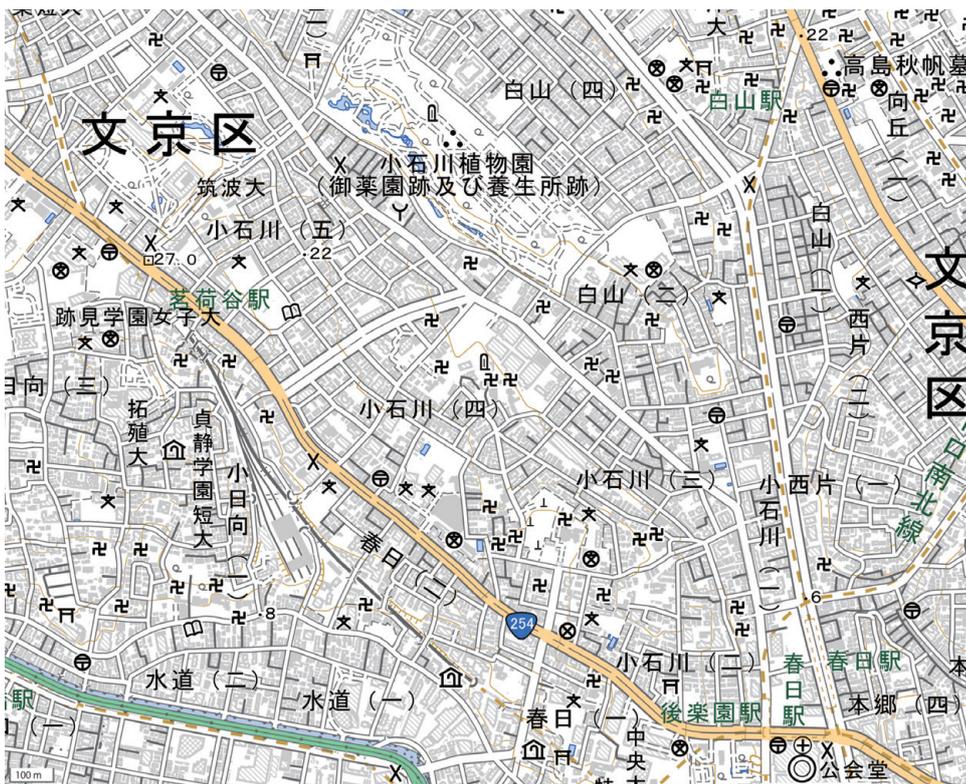
航空写真を手にした子どもたちは、自然と「お茶小」を探し始めました。「ここがお茶小だと思う」「こっちじゃない？」と声を掛け合いながら、一人ひとりが自分の航空写真を食い入るように眺めています。正解を求められているという緊張感よりも、見つけたい、確かめたいという思いに支えられて、航空写真そのものに没頭する姿が、教室のあちこちに見られました。

子どもたちがある程度見たところで、「お茶小」の位置の予想を学級全体で共有することにしました。子どもたちの予想を整理すると、航空写真上のA～Eの5か所（資料2）に分かれました。例えば、南側の【A】を挙げた子どもたちは、「校庭があること」や「校庭と校舎の位置関係が、実際のお茶小とぴったり同じであること」に注目していました。また、東側の【B】を選んだ子どもたちは、「校庭と校舎が見える」という共通点に加え、「たくさんの木に囲まれていて、お茶小と同じ雰囲気がある」と、周囲の様子を根拠としていました。北東に位置する【C】を予想した子どもたちは、「校庭が緑色でお茶小と同じだ」という色の印象や、「大きな道路に面している」といった立地条件に目を向けていました。さらに、北西についても見方は分られました。右側の【D】を選んだ子どもたちは、「お茶小のまわりは森みたいで、大学の敷地と雰囲気が似ている」と、周囲の環境全体から判断していました。一方、左側の【E】を挙げた子どもたちは、「大きな道路に面していること」や「校庭が緑色であること」を理由としていました。

このように、子どもたちは勘に頼って場所を挙げていたわけではあ



資料2 地理院地図（2026年1月取得）一部加筆



資料3 地理院地図（2026年1月取得）

りません。航空写真の中からそれぞれが意味のある手がかりを見つけ出し、自分の経験と重ね合わせながら判断していました。校庭の形や配置に注目する子もいれば、緑の広がりや道路との関係、さらには周囲の環境全体を手がかりにする子もいま

す。同じ航空写真を見ていても、どこに目を向けるかによって、子どもたちの予想は少しずつ異なっていました。

新刊地形図案内

令和7年調製2万5千分1地形図(桎判多色)(10面) 令和8年3月1日に、国土地理院から以下の地図が刊行されました。

図名	地図番号	地形図に含まれる自治体
平泉(ひらいずみ)	一関15-3	一関市、奥州市、平泉町
軍沢(いくさざわ)	新庄7-2	栗原市、大崎市、湯沢市
秋ノ宮(あきのみや)	新庄7-3	湯沢市
鬼首峠(おにこうべとうげ)	新庄7-4	大崎市、湯沢市、新庄市、金山町、最上町
松原湖(まつばらこ)	長野12-2	茅野市、小海町、南牧村、南相木村、北相木村、佐久穂町
蓼科山(たてしなやま)	長野12-3	茅野市、佐久市、佐久穂町、立科町、長和町
霧ヶ峰(きりがみね)	長野16-1	松本市、諏訪市、茅野市、立科町、長和町、下諏訪町
鉢伏山(はちぶせやま)	長野16-3	松本市、岡谷市、諏訪市、塩尻市、長和町、下諏訪町
諏訪(すわ)	長野16-4	岡谷市、諏訪市、茅野市、塩尻市、下諏訪町、辰野町
瑞牆山(みずがきやま)	甲府5-4	甲府市、北杜市、川上村、南牧村

時層地図 for スクール

『時層地図 for スクール』は、パソコンやタブレットのウェブブラウザでご利用いただける、教育用インターネット地図サービスです(東京および大阪とその周辺対象※)。

明治時代から現在までの地図・空中写真・色別標高図・ハザードマップなどを、並べて・重ねて表示できます。また、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」のツール(作図・計測・断面図作成等)も利用可能です。文字や図形を追加して調べ学習用の地図を作成したり、調査結果を地図に表示することもできます。

※表示範囲は「東京時層地図」または「関西時層地図」と同じです。

詳しくは、以下へお問い合わせください。

一般財団法人日本地図センター 地図研究所 研究開発部
kenkyu@jmc.or.jp



<https://www.jmc.or.jp/>



資質・能力を育てる 「地理総合」の授業 —計画・山場・評価—

由井義通 編
阪上弘彬 編
3,300円(税込)

★「考える地理総合」の授業を实践したい先生方に、オススメ!

現代の地理教育に求められているのは、生徒が自ら多様な視点から課題を捉え、協働して行動できる資質・能力(コンピテンシー)を育てること。新しい授業づくりのヒント満載の基本テキストです。



地域づくり叢書⑧ 公共交通と市民の日常移動

土谷敏治 著 3,740円(税込)
★採算難の公共交通を、市民の足として守るには？茨城県ひたちなか海浜鉄道とあおぞらバスの事例



地方圏からの進学移動と 学生の住まい

栗林梓 著 4,950円(税込)
★地方学生のリアルな声と、復活している学生寮や県人寮の利用実態から、教育機会均等を論じる

月刊地理

定価1,815円(税込)

3月号特集 ◎最新号 アフリカの食文化



2月号特集 台湾 近現代の 地域的諸相

1月号特集 小学生の地理 が面白い!



古今書院 〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-16-3
TEL 03-5834-2874 FAX 03-5834-2875

編集後記

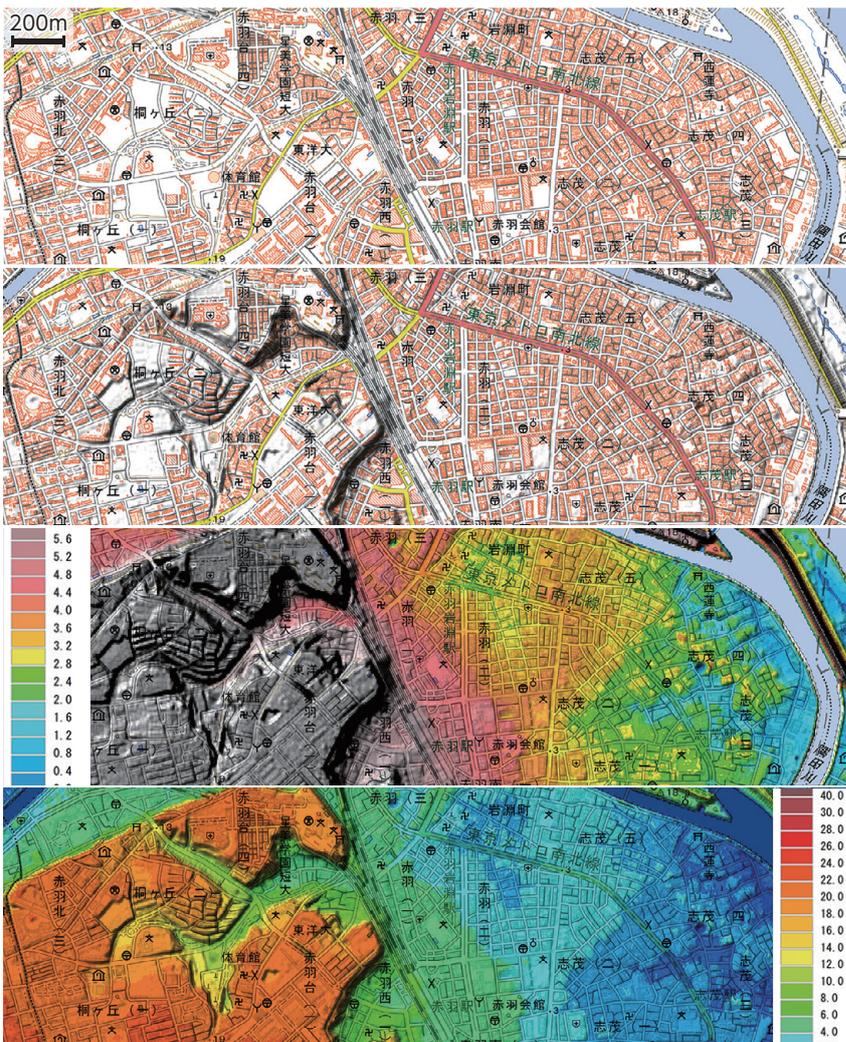
地理院地図 (2026 年 2 月 取得)

「地図力」を鍛える興味深い授業の数々。自分が生徒だったときに受けてみたかったと、うらやましく思いました。

複数の授業の中で「学校の周辺の身近なフィールドの不思議を地図で解明する」ことがテーマになっていました。解明に用いるには、それぞれフィールドに合わせた地図表現が求められることとなります。

地図の立体表現を、東京都北区赤羽周辺をフィールドとして比べてみました。①は、地理院地図の標準地図。②は、標準地図に陰影のみ加えたもの。③と④では、段彩の色分けの設定を変えています。③は、標高 0 ~ 6m の間を、0.4m 刻みで色分けして、低地の微高地や水路跡などの微地形に焦点を当てた配色。④は、標高 4 ~ 30m の間を、2m 刻みで色分けして、台地と谷戸地形が目立つような配色にしています。

それぞれの地図から、なにが読み取れるか？ あなたの「地図力」を試してみてください。(編集長・小林政能)



次号予告 2026 年 4 月 通巻 643 号

毎月 10 日 発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 総特集 巡検地図集成

「巡検」は、専門家が現場で、地形・地質・歴史・文化などを総合的に観察する学術的実践の場。しかし「巡検」の言葉や魅力は、必ずしも一般的には広まっていません。本特集では、各分野の専門家が実際に行った巡検で使用した地図資料を収録し、その視点と成果を御紹介。机上では得られない、体験と発見を生み出す「巡検」へ、あなたも出かけてみませんか!?



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417 (事務局)

地図中心

2026 - 3 通巻 642 号

発行 2026 年 3 月 10 日

発行所 一般財団法人日本地図センター
〒153-8522

東京都目黒区青葉台 4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(月刊「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880 円 (税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

